

28th Oct. 2016
日本航海学会 研究会

海上自衛隊のシーマンシップ Seamanship in JMSDF

松江 奈海

Nami MATSUE

海上自衛隊 第1術科学校 JMSDF 1MSS

151w207w@stu.kobe-u.ac.jp

自己紹介

氏名: 松江 奈海 04幹候 航海幹部

12. 4 ~16. 3 防衛大学校理工学部応用化学科(横須賀)
16. 3 ~17. 3 海上自衛隊幹部候補生学校(江田島)
17. 3 ~17. 9 練習艦隊司令部実習幹部(世界一周コース)
17. 9 ~18. 12 試験艦「あすか」通信士(横須賀)
18.12 ~19. 12 訓練支援艦「てんりゅう」機関士(呉)
19.12 ~20. 12 練習艦「やまぎり」水雷士(呉)
20.12 ~22. 3 練習艦隊司令部訓練幕僚補佐(呉)(中東・東欧コース)
22.3 ~24. 3 海上自衛隊幹部候補生学校学生隊長付(江田島)
24.3 ~25. 3 掃海母艦「ぶんご」航海長(呉)
25.3 ~26. 3 海上自衛隊第1術科学校幹部中級航海課程(江田島)
26.3 ~27. 9 護衛艦「まきなみ」航海長(大湊)
27.10 ~28. 8 阪神基地隊付(自己啓発等休業)
神戸大学海事科学研究科博士課程前期課程在学中
海上自衛隊第1術科学校教育2部航海科教官

12. 4 ~16. 3 防衛大学校理工学部応用化学科(横須賀)
16. 3 ~17. 3 海上自衛隊幹部候補生学校(江田島)
17. 3 ~17. 9 練習艦隊司令部実習幹部(世界一周コース)
17. 9 ~18. 12 試験艦「あすか」通信士(横須賀)
18.12 ~19. 12 訓練支援艦「てんりゅう」機関士(呉)
19.12 ~20. 12 練習艦「やまぎり」水雷士(呉)
20.12 ~22. 3 練習艦隊司令部訓練幕僚補佐(呉)(中東・東欧コース)
22.3 ~24. 3 海上自衛隊幹部候補生学校学生隊長付(江田島)
24.3 ~25. 3 掃海母艦「ぶんご」航海長(呉)
25.3 ~26. 3 海上自衛隊第1術科学校幹部中級航海課程(江田島)
26.3 ~27. 9 護衛艦「まきなみ」航海長(大湊)
27.10 ~28. 8 阪神基地隊付(自己啓発等休業)
神戸大学海事科学研究科博士課程前期課程在学中
海上自衛隊第1術科学校教育2部航海科教官

艦艇勤務: 7年 学生生活: 7年半 陸上勤務: 2年

発表次第

- 1 シーマンシップの歴史
- 2 江田島教育
- 3 訓育によるシーマンシップ教育
- 4 質疑応答

1. シーマンシップの歴史(明治以降)

1869(明治2)年	海軍操練所創設(東京築地)
1870(明治3)年	海軍兵学校寮と改称
1876(明治9)年	海軍兵学校と改称
1888(明治19)年	海軍兵学校を移転(広島江田島) 学習船(東京丸)内で開校
1893(明治26)年	生徒館(赤レンガ)へ移転



1. シーマンシップの歴史(明治以降)

英国海軍顧問団(British Naval Mission)

海軍当局→外務省駐英寺島大弁務使→英外務省

1872(明治5)年
「現在我々は教導するための行きとどいた経験のある日本の士官を全く持っていません。これは海軍の科学、**シーマンシップ**などすべての分野についてです。……そんなわけですから、日本帝国海軍は英国政府が各分野ごとに選抜した十名の士官と二十名の下士官の雇入れを強く望んでいます。」

1. シーマンシップの歴史(明治以降)

英国海軍顧問団(British Naval Mission)

1873(明治6)年 来日
アーチボルド・ドグラス中佐以下33名
(上級士官・中級士官・小監督・下士官水兵)



名前	階級	職種	月給	雇入期間
Archibald L. Douglas	中佐	顧問団長・艦長	400ドル	明治6-9年
Charles W. Jones	大尉・中佐	副顧問団長・准艦長・砲術科科長	300ドル 500円	明治6-10年(死去)
Charles W. Baillie	航海大尉	測量科科長・准艦長・砲術科科長	300ドル 400-450円	明治6-12年
Fredrick W. Sutton	機関長	機関術科科長	300ドル 400-450円	明治6-12年
Thomas S. Gissing	副機関士	機関術	145ドル 83セント	明治6-9年
William J. Harding	副機関士	機関術	145ドル 83セント	明治6-9年
Joseph W. Austin	一等掌砲長	砲術	145ドル 83セント	明治6-12年
Joseph Higgins	掌砲長	砲術	145ドル 83セント	明治6-9年
James Willoughby	二等掌帆長	運用術	145ドル 83セント	明治6-9年
Edwin St. John	掌帆長	運用術	145ドル 83セント	明治6-12年

以下省略

1. シーマンシップの歴史(明治以降)

MANUAL OF SEAMANSHIP Vol. I 1908

BY AUTHORITY OF THE LORDS COMMISSIONERS OF THE ADMIRALTY. LONDON:



S. Nakasato氏寄贈図書 1909年ロンドン
海軍大学図書 昭和4年
海軍兵学校図書印
第1術科学校 昭和31年

1. シーマンシップの歴史(明治以降)

海兵20期 中里重次(なかさと しげじ)



誕生 1871年10月12日山形県
死没 1946年1月20日(74歳)
最終階級 海軍中将
除隊後 北禅太石油社長

発令日	階級	職種/任官
明26(1893).12.19	海軍少尉候補生	金剛乗組(海兵卒)
明27(1894).6.18		高千穂乗組
明27(1894).7.14		浪速乗組
明27(1894).7.23		葛城乗組
明28(1895).3.6	海軍少尉	佐鎮海兵団分隊長
明28(1895).3.19		筑紫分隊長
明29(1896).3.31		砲術練習所学生
明29(1896).10.9		比較乗組
明30(1897).12.1	海軍中尉	
明31(1898).4.12		鹿島乗組
明31(1898).6.20		砲術練習所附
明31(1898).10.1	海軍大尉	筑紫分隊長
明32(1899).3.22		海大乙種学生
明33(1900).5.20		明石砲術長/分隊長
明33(1900).8.15		海兵砲術教官/監事
明36(1903).11.5		横立砲術長
明38(1905).1.12	海軍少佐	
明38(1905).6.14		常盤砲術長
明38(1905).12.12		軍令部参謀/大本営海軍参謀
明39(1906).11.22		軍務局員/教本部員
明41(1908).7.11		英國駐在
明41(1908).9.25	海軍中佐	
明43(1910).8.16		令留尉
明43(1910).12.17		阿蘇副長

2. 江田島教育

世界三大兵学校

現在は、幹部候補生学校、第1術科学校が置かれる




赤レンガ/大講堂
教育参考館

2. 江田島教育

海軍兵学校	幹部候補生学校
	遠泳 
	短艇 
	練習船実習 

五省

一 至誠に懐きなりしか
一 言行に恥ぢなりしか
一 氣力に缺きなりしか
一 努力に怠りなりしか
一 不精に亘りなりしか

海上自衛隊幹部候補生学校HP 11

2. 江田島教育

		
手旗訓練	シミュレータ訓練	1級小型船舶操縦士の教育
		
モールス信号送受信訓練	訓練水槽での訓練	防火訓練

第1術科学校HP 12

3. 訓育によるシーマンシップ教育

海上自衛隊の教育訓練

教育訓練 — 基本教育 — 素養教育・・・**訓育**、体育、
陸上警備、防衛学

— 術科教育 —
— 練成訓練 —

訓育の定義

訓育は、海上自衛官として任務遂行に必要な精神的基盤を育成するための諸活動であり、その体系は、「服務の本旨」を基本とし、「自衛官の心がまえ及びその解説」に基づく精神教育と「シーマンシップのかん養」等の有形無形のしつけ教育である。

3. 訓育によるシーマンシップ

海上自衛隊の訓育実施基準

区分	進 度	第1中隊教育	上級教育	進 度 別	新進士・初級幹部	中級幹部
訓 育	1 社会人としての「しつけ」の定義 2 海上自衛官としての「しつけ」の理解、実践 3 職域に固有の「しつけ」の概念を理解させる。	1 海上自衛官としての「しつけ」の定義 2 職域に固有の「しつけ」の概念を理解させる。 3 職域に固有の「しつけ」の理解、実践 4 職域に固有の「しつけ」の概念を理解させる。	1 「しつけ」の意義と必要性の理解に基づく指導力の確立 2 シーマンシップの本質を理解させる。 3 職域に固有の「しつけ」の意義と必要性の理解に基づく指導力の確立 4 職域に固有の「しつけ」の理解、実践 5 職域に固有の「しつけ」の本質を理解させる。	1 「しつけ」に関する機動的な行動の取組の確立 2 シーマンシップの本質に対する理解を深める。 3 職域に固有の「しつけ」に関する機動的な行動の取組に基づく指導力の確立 4 職域に固有の「しつけ」に関する機動的な行動の取組に基づく指導力の確立 5 職域に固有の「しつけ」の本質に対する理解を深める。	1 海上自衛官としての「しつけ」及び指導力の確立 (1) シーマンシップの意義を理解させる。 (2) 先見、後顧、端正、質実剛健及び不とう不届の精神を理解(実践)させる。 2 職域に固有の「しつけ」及び指導力の構築 3 職域に固有の「しつけ」の本質に対する理解を深める。	1 海上自衛官としての「しつけ」及び機動的な行動の取組の確立 2 シーマンシップの本質を理解させる。 3 職域に固有の「しつけ」及び指導力の構築 4 職域に固有の「しつけ」の本質に対する理解を深める。

3. 訓育によるシーマンシップ教育

海軍の シーマンシップ	海上自衛隊の シーマンシップ
航海 運用	しつけ教育

3. 訓育によるシーマンシップ教育

「MANUAL OF SEAMANSHIP」と海上自衛隊教育

Vol. Chapter	item	海上自衛隊における教育
I	I Bag and Hammock	制服・礼式・旗彰
	II Signals	信号（旗流・手旗・セマフォア）
	III Bends— Hitches — Knots — Splices	結索法
	IV Lead and Line	測船、測深儀
	V Mariners' Compass	羅針儀
	VI Boat Work	短艇法
	VII Rule of the Road	海事法規
	VIII Anchor Work	投錨編
	IX Rigging Sailing Ships and Vessel	帆走法
	X Watertight Doors and Valves Man	防水扉蓋、バルブ
II	I Organization	自衛艦乗員服務規則
	II Torpedo Net Defense	魚雷防衛
	III Coaling	燃料搭載
	IV Fire, Collision	防火・海難対処
	V Target Work	ブイ投下攝取作業
	VI Management of Steamboats	蒸気
	VII Embarking and Disembarking Troops	両用戦
	VIII Duties of Officer of the watch	当直士官心得
	IX Handling Ships	操艦法
	X Towing	曳き船曳かれ船
	XI Regulations for Preventing Collisions at Sea	海上衝突予防法
	XII Permanent Moorings	係船法